4 IWAについて

ISOが発行する文書の種類

ISO/IECが発行する文書には、主に以下の種類があります。

ISO/IEC出版物	内容	説明	コンセンサスレベル	発行時の承認要件
IS（国際規格）International Standard	規範	国際的な標準化機関によって採択された、公に利用可能な文書。発行後5年で見直しが*4 行われる。	全ISO/IEC会員	投票したPメンバーの2/3以上の賛成　かつ投票総数の1/4以下の反対
TS（技術仕様書）Technical Specification	規範	将来的にISとして合意される可能性はあるが、現時点ではISとして承認されるための必要な支援が得られていない等の文書。発行後3年で見直しが行われる。	TC/SC	投票したPメンバーの2/3以上の賛成
ISO-PAS*5（公開仕様書）Publicly Available Specification	規範	緊急の市場ニーズに対応するため、IS発行前に、予備的な文書が必要である場合等に発行する文書。発行後3年で見直し行われ、最長6年で廃止される。	TC/SC	投票したPメンバーの過半数の賛成
IEC-PAS*5（公開仕様書）Publicly Available Specification	規範	緊急の市場ニーズに対応するため、主に、IECの外部組織が策定した既存規格文書をIECが発行する文書。備考：PASが既存のISと矛盾することは許されない。同一のテーマに関して、競合するPASは認められる。	TC/SC	投票したPメンバーの過半数の賛成
TR（技術報告書）Technical Report	参考	一般にISまたはTSとして発行される文書とは異なる種類の収集データを含めた文書。見直しの規定はない。	TC/SC	投票したPメンバーの過半数の賛成
Guide（ガイド）	参考	国際標準化に関する事項、主に、規格類の開発についての方向付け、アドバイスまたは推奨事項を示した文書。	全ISO/IEC会員	反対票がISO/IEC会員団体の有効投票総数の1/4以下

＊5　JTC1-PASは、ISO/IEC-PASとは異なり、指定された外部組織が策定した規格をISO/IEC規格として出版するプロセスをいう。

ISO独自の文書には、主に以下の種類があります。

ISO出版物	内容	説明	コンセンサスレベル	発行時の承認基準
IWA（国際ワークショップ協定）International Workshop Agreement	規範	関心のある人たちで集ってワークショップを開催し、発行する合意文書。発行後3年で見直しがあり、最長で6年間存続させることができる。	ワークショップ	ワークショップ参加者のコンセンサス

（日本産業標準調査会ウェブサイトより引用）

ISO国際ワークショップ協定(IWAs)の概要

(1)IWAとは何か？
IWAとはISO専門委員会の全プロセスを通してではなく、ワークショップ会議を通して作成されるISO文書。
市場のプレーヤーと他のステークホルダーが、直接にIWAの開発に参加し、国家代表を介する必要がない。

(2)なぜIWAを選ぶのか？
IWAは
・ターゲットとなる部門(公的又は民間)からの主たるプレーヤーの参加を得て、問題に対する明確なルールを部門が開発できるようにする。
・職業上の慣行又は参照文書の可視性を高める(ISOは認知度の高い国際団体である)
・課題の将来の方向性を形作り、将来のISO規格のよりどころとなることを支援する。
・職業分野又は部門の中での関係を構築することができるようにする。
・様々なステークホルダーの間での理解と調整を創り出す。
・部門の中でのベストプラクティスを共有する。
・品質と相互運用性を向上させる。
・ISO会員間での配付ネットワークにより世界的な可視性に導く。
・例えば専用のウェブサイトを使って意思疎通を図る会員だけのフォーラムを構築するのを支援する。

(3)誰が係るのか？
誰でもがIWAを提案でき、誰でもが開発に参加できる。
ISO会員団体がワークショップを組織化し運営する支援のために任命される。
これにより、国際標準化の基本原則(透明性、公平性及びコンセンサス)の適用が確実になりプロジェクトの信頼性が生まれる。

出典：JSAウェブサイト(ISO公表文書を和訳したもの)

ISO国際ワークショップ協定（IWAs）の発行までの流れ

ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3	ステップ 4	ステップ 5
提案	**ISO/TMBの承認**	**ISO/CSがワークショップの詳細を回付**	**ワークショップ開催および文書に合意**	**IWA発行**
ISO中央事務局またはISO会員に提案を持ちかける。 提案は以下を含むこと: ✓ 目的と妥当性 ✓ 関連文書 ✓ 関心を有するかも知れない組織の一覧 ✓ 幹事国を務めてくれるISO会員団体の表示 ✓ 複数回の会議が見込まれる場合は，推定される会議回数 ✓ 提案されたIWA配付のための特別な取決めの詳細 **注記:**TMB承認を求める提案のために書式が用意されている。	• ISO/CSは承認を求めてISO/TMBに提案を回付する（提案された配付のための取決めについてISO/事務総長と精査の上）。 • TMBは本プロジェクトの幹事国を務めるISO会員団体を正式に任命/確認する。 • ISO会員団体は提案者と共にワークショップのすべての詳細を決定する: ✓ 価格（会費有のとき） ✓ 時間／日にち／会場 ✓ フォーマット ✓ 背景 ✓ 文書供給 ✓ プロセス ✓ 議長	• 通知 – ステップ2で合意したすべての詳細と共に – すべてのISO会員に回付される（ISO/CSによって）。 • ISO会員団体は潜在的に関心を有している関係者に**公表する**ために提案をできる限り広範に回付する。 **注記:**あらゆる組織又は会社又は個人の参加が許される。	• 会議で（事前に指名される）議長を確認する。 • IWAのすべてのプロセスを通して，議長は偏見をもたずに**最大限のコンセンサス**が確実に達成されるように努めなければならない。 • 文書案は作成されワークショップ参加者に回付される。 • これは，議長が最大限のコンセンサスが得られたと確信するまで繰り返すことができる。 **注記:**ワークショップ参加者が専用のWebサイトからオンラインで参加する方法も可。 **注記:**必要に応じて複数回の会議開催も可。	• IWAの最終稿が幹事国よりISO/CSに送られる。 • ISO/CSは文書をフォーマット化 – 適正なISOの表紙ページ／ロゴを付ける。 • ISO/CSは適正に供給できるすべての会員団体に文書を供給する。 • IWA配付のための特別な取決めは，ここで設置される。
開始 – ISO/CSの提案処理時間は通常は1か月以内。	**最長3か月**	**ワークショップ開催3か月（90日）前の事前通知が必要。**	**この段階はIWAの適用範囲に依存する。しかし，3か月以内に完了することを目指す。**	**1か月**

12か月以上要しないように – より短期間をめざす。

出典：JSAウェブサイト（ISO公表文書を和訳したもの）

5　データ駆動型アグリフードシステムの参照アーキテクチャに関する国際ワークショップについて

本国際ワークショップの開催概要

【参集方法】
ZOOM上でバーチャル開催（参加登録者に対して直接ZOOMリンクが配付される）

【参加費】 無料

【体制】
提案者：DIN（ドイツの標準化機関）、ANSI（米国の標準化機関）

セクレタリ（予定）：Mr Johannes Lehmann（DIN）
議長（予定）：Mr R.Andress Ferreyra

本国際ワークショップ開催の目的・背景①

・データ駆動型アグリフードシステムのための参照アーキテクチャ(RA)に関する作業を開始する。

－データ駆動型アグリフードシステムの実現のための初期の包括的なステップ。

－ベストプラクティスに沿った概念モデル、参照モデル、さまざまなアーキテクチャビューを定義。

－データ駆動型アグリフードシステムのプロセスをサポートするための情報システムを実行するための構造的なアプロ―チを提示し、当該情報システムを作成する際のアーキテクトを導くフレームワークとして機能。
⇒データ駆動型アグリフードシステムにおける標準開発の相互運用性を可能にする

－IWAの成果物は、参照アーキテクチャの予備的仕様とその使用方法に関するガイダンスを提供し、ISO/TC347への基本的なインプットとなる。
※PDF文書に加えて、参照アーキテクチャの成果物(機械可読)を含める。
⇒ISO/TC347で参照アーキテクチャに関するISO規格を開発する基礎とする。

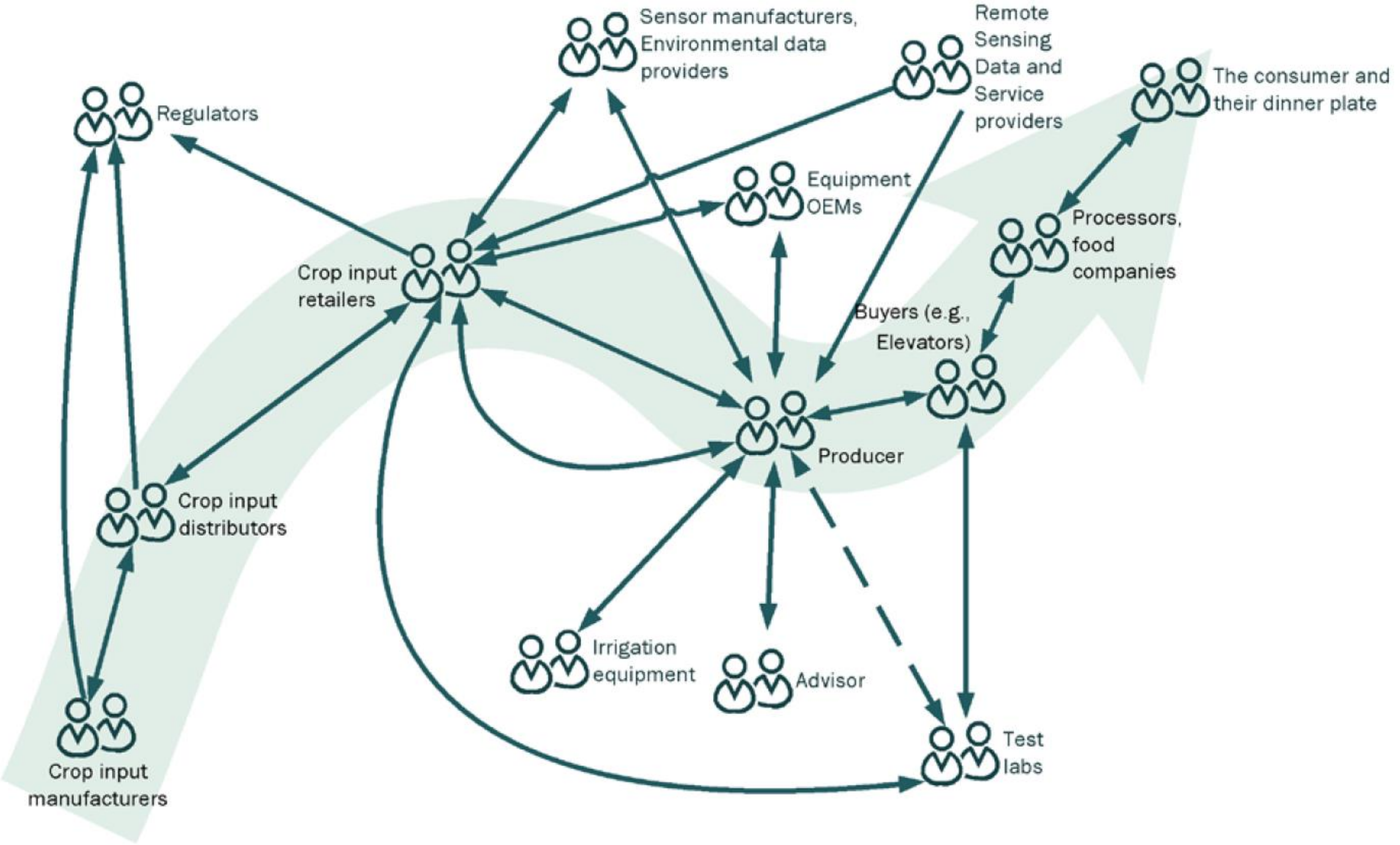
本国際ワークショップ開催の目的・背景②

・データ駆動型アグリフードシステム(特にスマート農業)では、システム内・システム間の両方で広範なデータ交換を必要とする(「a system of systems」として表現)。
・しかし、標準化された機能とインターフェースが存在しないため、相互運用性が困難。
⇒参照アーキテクチャによりこの標準化を可能とし、相互運用性、データの整合性、セキュリティを可能にすると同時に、利害関係者がデータを活用して農業プロセスを最適化し、食品の品質を向上させ、増加する世界人口を養うという課題に対処する。

・IWAで参照アーキテクチャを検討することで、できるだけ多くの国から要件を収集し、最終的な結果が多くの国で使用できる/適用できるようにする。
さらに、ステークホルダーの懸念も考慮する。
→SAG-SF最終報告書4.3に規定されたビジネス機能要件(The capability model)を使用して作業を開始する
→メタ参照アーキテクチャに関するISO/IEC JTC1の文書 及び、ソフトウェア・システム・エンタープライズ―アーキテクチャデスクリプションに関する ISO/IEC/IEEE42010 のガイダンスに従う

※本ワークショップを開催することで、TC347へのより多くの専門家の参加を期待。

（参考）アグリフードシステムにおける利害関係者とデータフローの例



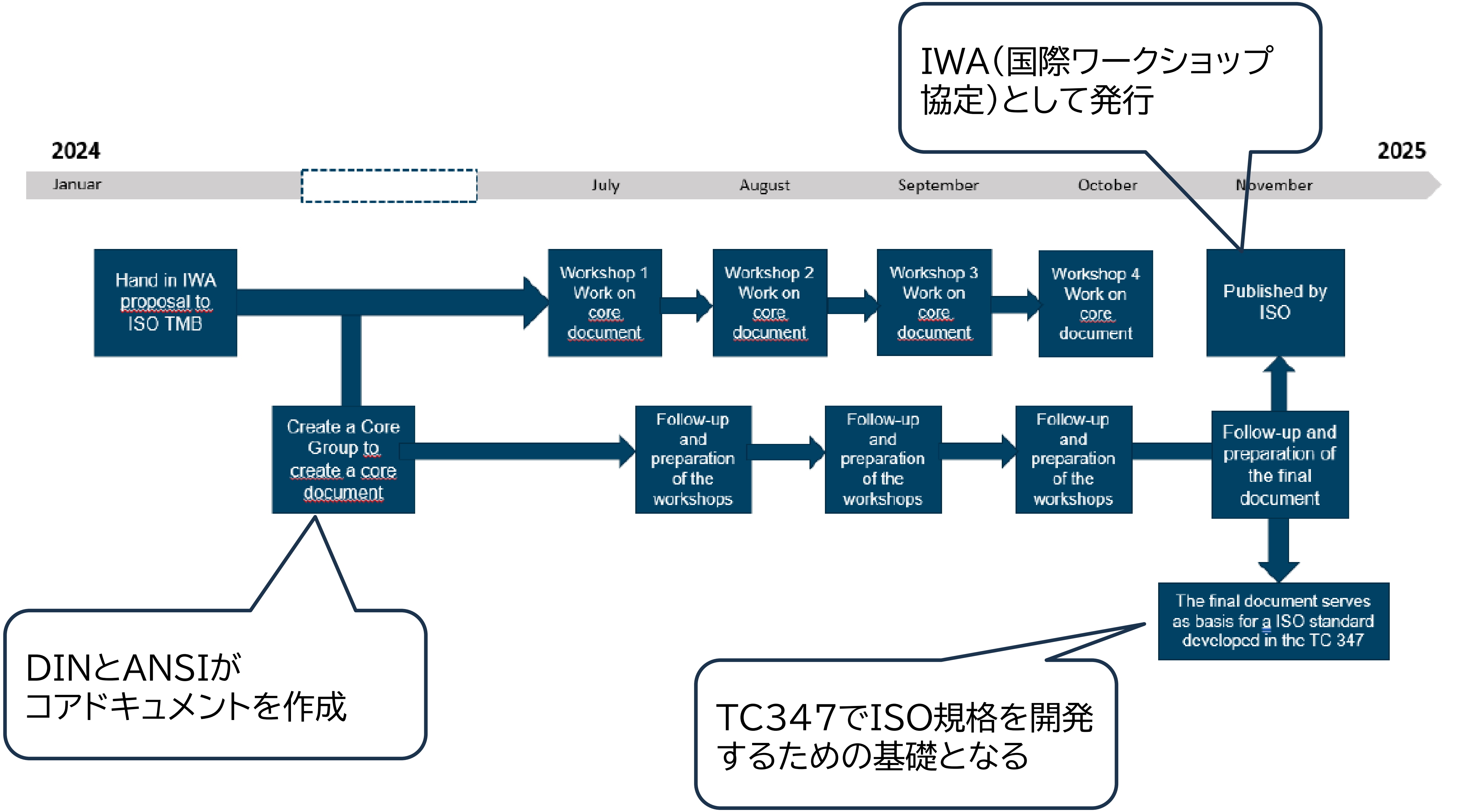
（上記図はSAF-SF最終報告書から引用）

構成案(案)

・本作業に期待される主な成果は、データ駆動型アグリフードシステムの参照アーキテクチャに関する後続の規格(subsequent standard)の基礎となる文書である。

1. Scope　(スコープ)
2. Normative references　(引用規格)
3. Terms and definitions　(用語と定義)
4. Abbreviations　(略語)
5. Objectives of a reference architecture for data-driven agrifood systems
6. Characteristics of data-driven agrifood systems (including smart farming)
    a. General
    b. Stakeholders and their concerns
    c. Functional characteristics
    d. Other characteristics
7. Data-driven agrifood systems reference model
    a. Dimensions
    b. Vertical domains
    c. The Capability Model
8. Data-driven agrifood systems reference architecture views
    a. General
    b. Functional architecture view
    c. Engineering architecture view
    d. Privacy architecture view
    e. Safety architecture view
    f. Reliability and resilience architecture view
    g. Trustworthiness architecture view

本国際ワークショップの流れ



６　本国際ワークショップへの対応について

本ワークショップ（WS）への対応方針（案）　※今後変更の可能性あり

〇日本からの参加者等向けの国内枠組み（メーリングリスト）を設置予定。
→以下の①及び②の方に御参加いただき、意見や情報の共有の場として使用。
→本枠組みはTC347国内審議委員会の下に設置し、TC347国内審議団体（事務局）が運営。

①　WSに直接参加する方

・WSへの参加申し込みが必要。
・自らWSの議論に参加し、自由に発言が可能→自分の意見を通しやすい
・WS側から直接資料を受け取ることができる→早い
・上記の枠組みにも御参加いただくことで、WSでの議論のフォローや、WSの議論を円滑に進められることが期待（枠組みへの参加は任意）

②　WSに直接参加しないが、上記枠組みに参加する方

・WSへの参加申し込みは不要。
・枠組みを通じて、資料を共有。意見があれば原則としてメーリスに投稿。
※投稿された意見の扱いは一任。

①又は②の者以外への資料共有はできません

①&② 国内枠組みへの参加申し込み方法

① WSに直接参加する方 及び
② WSに直接参加しないが、国内枠組みに参加する方

<u>URLにアクセスし、以下の情報を入力。</u>

（登録する情報）
・氏名・ふりがな
・勤務先・
・メールア
・電話番
・参加理

（URL）
https:/ … IWA
47 2.ht

（期限）令

枠組みへの参加に御興味がございましたら、
以下のメールアドレスまで御連絡下さい。

【事務局】
TC347国内審議団体（農林水産省基準認証室）
メールアドレス：jas_kokusai@maff.go.jp

（参考）その他参照していただきたい事項

・本体P.3（5枚目）
：第1回目ミーティングの議題案

・ANNEX1－P.4（10枚目）
：関連する文書、関連するISO委員会、関連規格、関連する利害関係者

・ANNEX2－（12-13枚目）
：参照アーキテクチャの議論を開始する理由

・ANNEX2－（14枚目）
：参加が推奨される分野

・ANNEX3－（15枚目）
：参加登録に必要な事項
（※本フォームの利用は、オンライン登録ができない場合のみ）

・（別添資料）SAG-SF最終報告書抜粋
「4.3 The Capability Model」＋その和訳（仮訳）